

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」忍ヶ丘駅前校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	31
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	勉強を教えるだけでなく、学習の手順ややり方の工夫を促し、多角的なサポートを行うことで、得意なことを伸ばし、苦手なことを軽減できるような療育の提供を行っている。	苦手分野の把握を行い、正しい判断が出来るよう多様なプログラムを用意している。	一人ひとりと丁寧に向き合い、療育の方向性を職員全体で考える。
2	居場所や繋がりを大切にしている。保護者と連携を取ることで利用者を見守ることが出来ている。	社会性やコミュニケーション能力の向上を促す工夫をしている。対話やリフレッシュの時間を確保し、気持ちを切り替え安心して過ごしてもらっている。	情報の共有を継続していき、課題の整理と必要な支援を検討する。
3	個別支援の特性から個々の利用者にあった療育の提供やコミュニケーションを密に取ることが出来る。	1対1の個別療育なので動作や状態の評価を丁寧にすることが出来る。	利用者に対する評価を掘り下げて行い、様々な課題を試行していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	受験生に対しては特に、一般教科学習がメインになってしまいやすく、放課後等デイサービスとしての療育の提供のメリットが少なくなってしまう。	個別療育のため保護者のニーズも勉強に向きやすくなり、障害の特性よりも成績に目が向いてしまう。	保護者への理解を得て利用者の今後の生活や特性にも目を向ける必要がある。
2	定員の上限があるので放課後等デイサービスの新規の受け入れが難しくなっている	新規の受け入れの枠に限りがあるため難しい。	なるべく多くの方にご利用していただけるように、利用枠の整理をすすめ上手く活用できるように工夫をしたい。
3	実際の支援について職員同士で助言しあう機会がもっと増えれば良いと思う。	それぞれが自立して支援を展開できる力量があるため。	互いの支援見学を実施して評価を行い、別の観点でアドバイスシートで共有するなどの取り組み。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」忍ヶ丘駅前校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 50

回収数 31

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	1	0	2	活発な子供なのでもう少し走り回れる広さは欲しいなと思います。□	限られた環境の中で、身体を動かせるスペースを確保するために用具の収納の工夫に努めている。お子様がけがをしないように安全面の環境整備にも配慮をしていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28	1	0	2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	1	0	4		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	2	0	2		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	2	0	2		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27	0	0	4		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30	0	0	1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	0	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	0	0	2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	0	0	3		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	3	10	7		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30	0	0	1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30	0	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	2	3	9		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	29	1	0	1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	2	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	0	0	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	5	6	11		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24	1	0	5		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27	1	0	3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	3	0	8		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	0	0	4		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	2	0	6		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	1	0	8		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	1	0	4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1	0	6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	30	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	4	1	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	29	0	1	1	支援は満足しているが、希望枠の空きがなく、週1回しか利用できない。□	あらかじめキャンセル待ちをお伺いすることで、少しでも多く療育の提供が出来るような体制に努める。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」忍ヶ丘駅前校					公表日	2026 年 2 月 14 日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		限られたスペースを活用して運動等の課題にも取り組めるよう工夫をしている。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		法令を遵守した配置である。	職員の配置には余裕がある。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		トイレや教室は段差のないバリアフリーに配慮した設備環境を整えている。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		感染予防の観点から毎日清掃消毒を行い、設備の点検等、安全対策に取り組んでいる。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じてこどもが療育する教室を選択することができるようにしている。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		事業所内で会議等を実施し、目標設定や振り返りを行っている。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者へのアンケートを実施し、業務改善に努めている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内で会議や定期的な面談等の機会を設けて業務改善に努めている。	個別の面談や会議の機会を増やす工夫を行い、さらにコミュニケーションを取れるようにする。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在は、利用者・社内の2者評価である					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		発達支援研究所による定期研修、その他各種の内部研修を実施している。	外部の研修への参加や他事業所の見学の機会を増やす。				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、公表している。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントをもとに課題を分析し、個々の発達の過程・特長等に応じた個別支援計画の作成に努めている。					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画作成会議を開催して、こどもの支援にかかわる職員で情報を共有して検討している。					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画は職員間で共有を行い、計画に沿った支援を行っている。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントシートを使用している。また、日々の支援で利用者の行動を観察し共有している。					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインの内容を踏まえて、個々のニーズに合わせた項目を設定したうえで支援内容を設定している。	利用者の状況に合わせた具体的な支援計画を作成することを心掛けている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で話し合いを行い、立案をしている。様々な意見を取り入れやすい環境になっている。					

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		お子様の様子やニーズ、課題に合わせて支援内容を変化させるように工夫をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		○	基本は個別療育だが、お子様それぞれの特性や状況に合わせて小集団の療育を適宜組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		個別療育のため役割は無いが、ミーティング時やその都度、情報の共有を行い確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後の情報共有に努めている。就業時間の関係で間際まで支援していた場合は翌営業日に共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎回の支援記録を残し、振り返りも行いながら全体でいつでも情報共有や確認ができるシステムである。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月以内にモニタリングを実施し、個別支援計画の見直しを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こども自身の意思で課題を選択出来る環境はある。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と担当指導員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の希望により動ける体制を取っている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎は行っていないが、行事等は保護者を通して情報を共有している。保護者からの要望があった場合や必要に応じて、学校との情報共有等を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			必要に応じて情報提供できる体制を整えている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			必要に応じて情報提供できる体制を整えている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センター主催の研修に参加をしている。また必要に応じて発達検査の結果等の共有をしてもらい支援についての助言を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	今のところ交流の機会はない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		代表者が自立支援協議会の放課後等デイサービス連絡会の定例会議に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の支援終了後に保護者への振り返りを実施している。事業所内の家族支援で相談を受けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	支援終了後の振り返り時に情報を共有し、ご家庭での対応法について相談を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規定・重要事項説明書を事業所内に掲示し、支援プログラムはHPで公表している。契約時には利用者負担額の説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		6か月ごと計画の見直しの際に保護者とお子様からのご意見ご要望をお聞きしている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を提示して内容の説明を行い、保護者の同意の上署名をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援後の振り返りで、相談を行っている。また、家族支援で悩みや相談に応じる機会を設定している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	親の会の活動やイベント情報を教室内に掲示して情報提供を行っている。	今後の要望や必要に応じて保護者同士の交流の機会を検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		毎回の支援後の振り返り時や事業所内での家族支援を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログ、Instagramを中心に、毎月のきりぎり通信、教室掲示板を活用して情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報記載された書類や端末は鍵付きの書庫に保管し、職員全員で取扱に注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			お子様や保護者の状況に応じてわかりやすい意思の疎通・情報伝達を意識している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		事業所の行事に地域住民を招待することはない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは職員と保護者に配布している。月に1度防災訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に訓練の実施に努めている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントを取る際に持病や服薬、てんかん発作等について確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供はしていないが、アレルギーについてはアセスメント時に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、定期的な点検や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			緊急連絡先を伺い緊急時の連絡がとれる体制を整えている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、自校舎はもちろん他校舎とも共有することで安全性への意識を高め、大きな事故を未然に防ぐように注意している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置して研修・話し合いを実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に説明をし、やむを得ず身体拘束を行う場合は個別支援計画に記載している。	